

公共工事等における 新技術活用システムの 活用状況について

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課

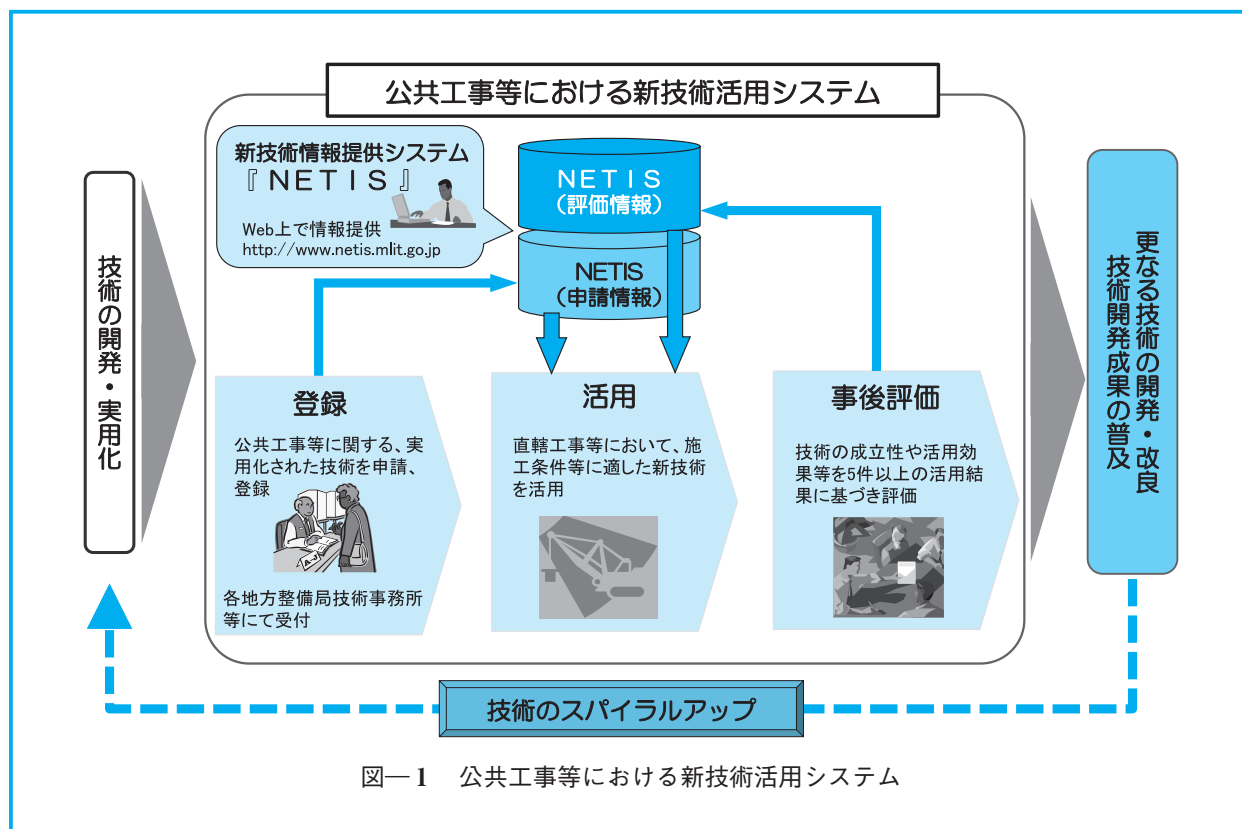
課長補佐 おびつ 小櫃 もとずみ 基住

1. はじめに

公共工事等に関する優れた技術は、公共工事等の品質確保に貢献するとともに、良質な社会資本の整備を通じて、国民生活の安全の確保、環境の保全、個性豊かな地域社会の形成などに寄与しています。こうした優れた技術を持続的に創出して

いくためには、民間事業者等により開発された有用な新技術を公共工事等において積極的に活用していくことが重要です。

「公共工事等における新技術活用システム」（以下「新技術活用システム」という。）は、新技術の積極的な活用を通じた民間事業者などによる技術開発の促進、優れた技術の創出により、公共工事等の品質確保、良質な社会資本の整備に寄与することを目的とし、公共工事等における新技術の



図一 公共工事等における新技術活用システム

活用検討の効率化や活用リスクの軽減などを図り、有用な新技術の積極的な活用を推進するための仕組みであり、「新技術情報の収集」、「新技術情報の提供」、「新技術の活用」、「新技術の事後評価」及び「新技術の活用促進」から構成され、新技術の活用促進のため、新技術に係る情報の共有及び提供を行う「新技術情報提供システム（New Technology Information System）」（以下「NETIS」という。）を整備、運用しています（図—1）。

新技術活用システムは平成10年度より運用開始、平成18年8月からは新技術の事後評価を中核としたシステムとして本格運用、その後平成22年度、26年度に種々の改善を行ってきています。

以下では、平成26年度の実績を中心に新技術活用状況を紹介します。

2. 新技術の登録情報

平成27年7月現在の登録数は次のとおりです。

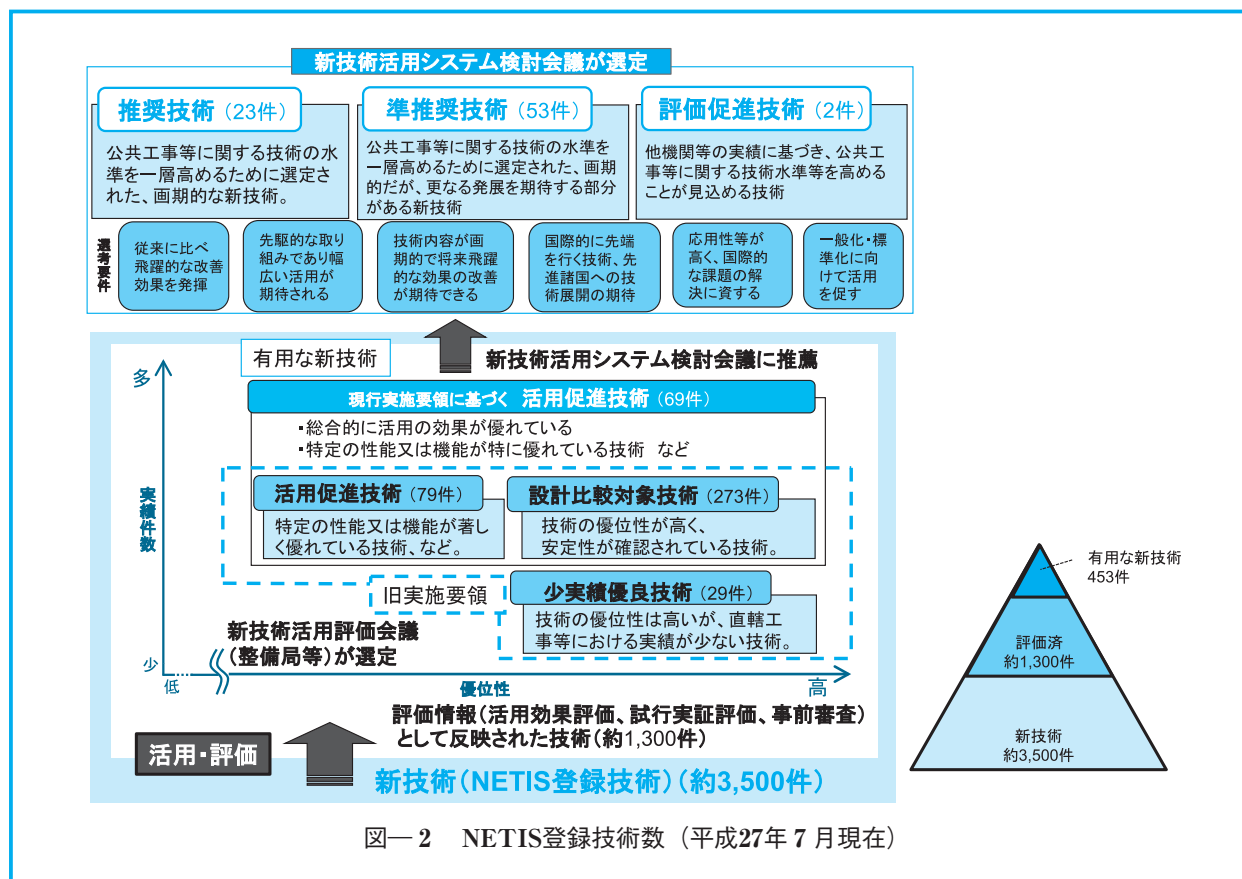
- ・申請情報（登録数） 約3,500件

- ・評価情報 約1,300件
- ・有用な新技術 453件

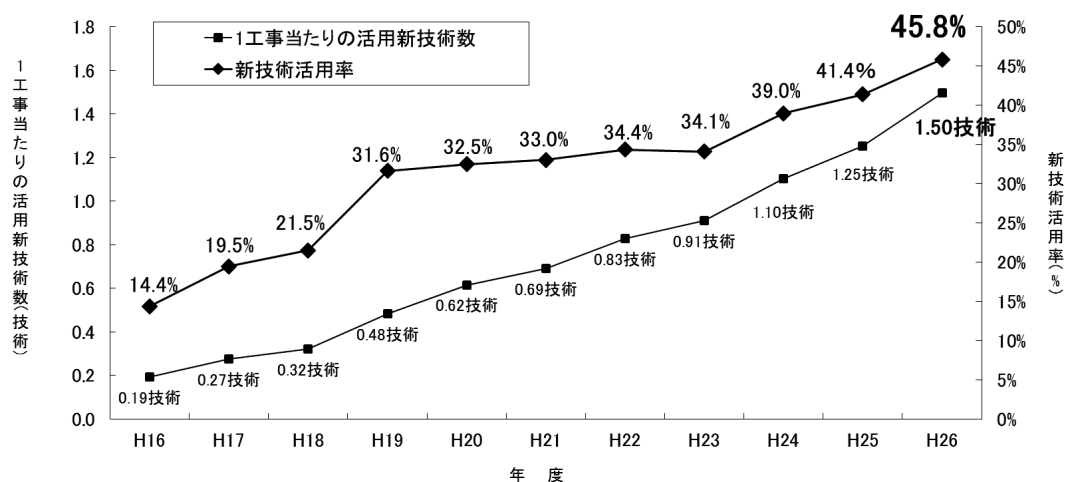
事後評価の結果が優秀な技術については、有用な新技術として指定し、活用の促進を図ります。平成26年3月までの旧実施要領により「設計比較対象技術」273件、「少実績優良技術」29件、「活用促進技術」79件、平成26年4月に改正した実施要領により、「活用促進技術」69件を、地方整備局等の新技術活用評価会議にて有用な新技術として選定を行っています。この有用な新技術のうち評価会議等から推薦された技術より、国土交通省本省の新技術活用システム検討会議が「推奨技術」23件、「準推奨技術」53件、「評価促進技術」2件の選定を行っています（図—2）。

3. 新技術活用の推移

新技術活用率（新技術を活用した工事件数を総工事件数で除したもの）は、平成26年度では45.8%となり、平成16年度以降の統計で最大となりま



図—2 NETIS登録技術数（平成27年7月現在）



図一 3 新技術活用状況（年度別）

した。

1工事当たりの活用新技術数は平成16年度より継続して増加し、1.50技術となりました。また、新技術が活用された1工事当たりでは平均3.26技術が活用されています（図一 3）。

4. 工種別の活用状況

平成26年度において、活用述べ新技術数のうち、もっとも多くの新技術が使われた工種は、「コンクリート工」でした。次いで、「仮設工」、「土工」、「共通工」、「道路維持修繕工」の順に、

多く活用されています。

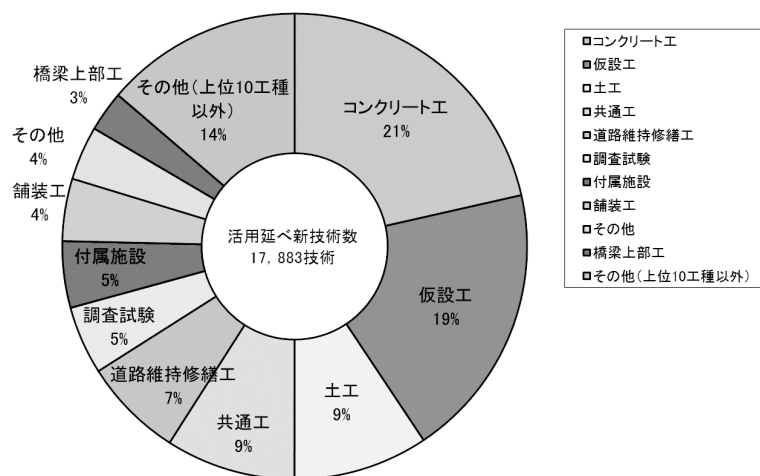
ここ数年間、上位2工種には変動はなく、常に2工種で全体活用数の約4割以上を占めている状況です（図一 4）。

5. 型式別の活用状況

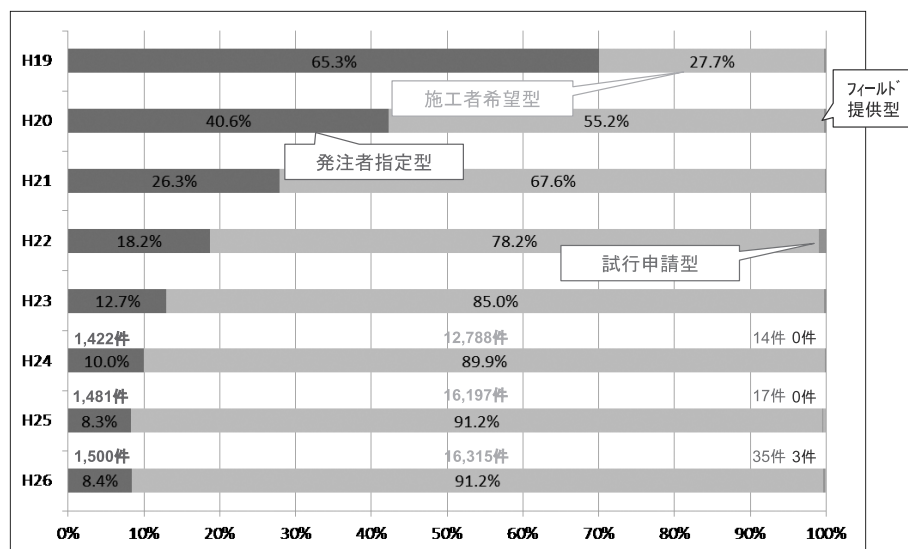
NETIS（申請情報）に登録された新技術は、5つの型で活用されています。

① 発注者指定型

直轄工事における現場ニーズ、行政ニーズにより必要な新技術を発注者の指定により活用する型



図一 4 活用述べ新技術数の工種別内訳



図—5 新技術活用状況（型式別）

② 施工者希望型

入札契約の総合評価方式における技術提案または契約締結後における施工者からの技術提案申請に基づき、施工者が新技術を活用する型

③ 試行申請型

事後評価未実施技術を対象に、NETIS申請者の試行申請に基づき試行を行う型

④ フィールド提供型

現場ニーズ等により、各地方整備局等がNETIS申請者からの新技術提案募集を行い、フィールドを提供し、活用する型

⑤ テーマ設定型（技術公募）

現場ニーズに基づき設定した技術テーマに対し、応募のあった技術を現場で活用、評価することで、新技術の現場導入及び評価の加速化に取り組む型（平成26年4月に改正した実施要領で新たに制定した型）

各年度の活用延べ新技術数を活用型別にみると、以下のとおりです。

「施工者希望型」の割合が年々増加しており、平成26年度では5つの型に占める割合は91.2%となりました。

「施工者希望型」の割合が増加してきた要因は、入札契約（総合評価方式における新技術活用に関

する技術提案）及び施工時（新技術活用時の工事成績評定）に、施工者提案による新技術の活用に対するインセンティブを与える取り組みをしている効果と考えられます。

なお、「テーマ設定型（技術公募）」においては、インフラの点検・診断に資する技術の掘り起こしを図るため、7つのテーマについて技術の公募を行いました。今後、現場での検証・評価を実施する予定であり、図—3の活用件数としてはカウントしていません（図—5）。

6. おわりに

国土交通省においては、新技術活用システム運用開始以来、年々新技術の活用が増えている状況にあります。今後も新技術の活用促進と技術のスパイラルアップを目指して、NETISの効率的な運用を図りますので、工事現場における新技術の積極的な活用をお願いします。

NETIS（新技術情報提供システム）

HP <http://www.netis.mlit.go.jp/>

NETIS

検索